



みんな神の子

二〇〇七年の十一月、「ムスリム公演」が教会付属のカトリック幼稚園で行われた。園児やその保護者、教会関係者など二百数十人が集まった。ムスリムとはイスラム教徒のこと。フイリ



ピンのミンダナオ島の青年たちが民族音楽や踊りを披露した。参加者はムスリムの文化に触れて交流を深めた。

二〇〇五年に教会の創立五十周年を迎えたとき、これを機に自分たちの教会のことだけでなく、広く世界に目を向け、わたしたちにできることをしようとした。そのすこし前からポリビアとミンダナオの子どもたちを支援していたので、その活動を教会で続けることにした。ポリビアについては、現地で二十五年以上宣教司牧にあたっておられるサレジオ修道会の倉橋神父の活動を通して、また重い障がいの子どもたちのため

に働いている野原昭子さんを通して、現地の方たちの助けにな



ムスリムダンスに見入る子どもたち

ればと微力ながら支援している。五十周年を祝う前の年、一人の幼稚園職員が隣町で行われた



やまもと まこと 山元 眞 神父

絵本についての講演会に参加した。それにひどく感動した先生が、その講師にぜひ会おうようにわたしに勧めた。「絵本は愛の体験です」という彼の著書を一気に読み、会いたいと思った。わたしと同年だった。すぐにメールをして、幼稚園の保護者会主催の講演会の講師をお願いした。これが松居友さんとの出会いの始まりだった。後で知ったのだが、その頃の松居さんは作家としての活動よりも「ミンダナオ子ども図書館」の活動に力を入れ始めていた。

「ミンダナオ子ども図書館」といえば、本がたくさんある「図書館」の施設をイメージするが、

これはいわば養護施設のようなもの。極貧のゆえに学校に行けない子どもたちが、日本の有志の人たちが出す奨学金で共同生活をしながら学校に通っている。八歳から二十三歳。小学生から大学生まで五十〜六十人が寄宿生活をしている。宗教、民族もさまざま。イスラム教徒もいればキリスト教徒もいる。この施設のスタッフで日本人は松居さん一人。他は皆ミンダナオの人たち。

この活動の発端はミンダナオ島のコトバト地域のピキットという街周辺で出会った多くの難民の現状を見たことだった。「わたしにできることは何か」と考えた松居さんは、一人で活動を始めた…。

「わたしたちにできること」：これがこの教会のモットー。無理をしないボランティア。ボランティアの本来の意味は自発性。自分で望んで、自分ですること。させられてすることではない。あるとき、教会委員会で次のような意見が出た。「このような活動は今はいいが、主任司祭が転

任したらどうなるのか。」一人の信者が言った。「それは関係ないでしょ。このような支援は神父がしているわけではない。神父を含めてわたしたちがしていること。だからわたしたちが決めていく。神父にさせられてしているわけではない。できなくなったり、する気がなくなったら止めたらいいい。できることをで



映像を使って講演する松居さん

きる形ですればいい。」創立五十周年の祝いの直後「ミンダナオ子ども図書館」に行った。施設の子どもたちが民族、宗教の違いを越えて共に助け合っ

て生きている姿に感動した。奨学生の彼らが、週末に貧しい地域に絵本をたくさん持って読み語りに行く「ボランティア」に同行した。他の国の人が現地に行って手を差し伸べるのではなく、彼ら自身が彼らの同胞を助けることによって、真の自立ができるように支援することが大切なのではないかと思った。どんな人でも、すべての人は神の子であることを信じ、受け止めること、それが真の信仰ではないだろうか。「すべての人」に例外はない。この視点に立たないかぎり、平和な世界を作っていくことはできないと思う。

ムスリムの若者の笑顔と素晴らしい音楽と楽しいダンスは幼児のこころの奥底に響いたと思う。彼らが真の平和を作っていく。

＊行橋でのムスリム公演の様子とその時の松居さんの講演のDVDを入手できます。

詳しくは行橋カトリック教会のホームページをご覧ください。また「ミンダナオ子ども図書館」のホームページではその活動を詳しく見ることができます。

＝善き隣人として奉仕する＝

葬儀の御用は弊社に

TEL 03-3702-0156 FAX 03-3702-0159

※御報参上・手続代行他。

〒158-0086 東京都世田谷区尾山台3-9-6

(株) 沼崎商会

サマリア式典部 沼崎 馨